第八講『新花つみ』

次の文章は与謝蕪村の記した『新花つみ』の一話である。これを読んで、後の問いに答えよ。

常陸の国、下館（しもだて）といふところに、中村兵左衛門といへる有り。故（注）夜半亭の門人にて俳諧をこのみ、風篁（ふうくわう）とよぶ。ならびなき福者にて、家居[1]つきづきしく、方式町ばかりにかまへ、前栽後園には奇石異木をあつめ、泉をひき、鳥をはなち、（注）仮山の致景、自然のながめをつくせり。国の守（かみ）も、をりをり入りおはして、又なき長者にて有りけり。妻は阿満（おみつ）といひて、藤井某といへる大賈の女にて、和歌のみち・[2]いと竹のわざにもうとからず。こころざま優にやさしき女也けり。

さばかりの豪族なりけるに、いつしか家おとろへ、よろづものさびしく、たち入る人もおのづからうとうとしくなりぬ。

その家のかくおとろへんとするはじめ、いろいろの[3]もつけ多かりけり。それが中に、いといと身のけだちておそろしきは、一とせの［Ａ］、春待つ料に、もちひいついつよりも多くねりて、大いなる桶にいくらともなく蔵（をさ）め置きぬ。そのもちひ夜ごとにへり行きければ、何もののぬすみ去りけるにやと、うたがひつつ、桶ごとに（注）門扇のごとき板を覆ひて、そのうへにしたたかなる盤石をのせ置きたり。つとめてのあさ、こころにくみて打ちひらき見るに、覆ひはそのままに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

て有りつつ、もちひは半ば過ぎへりうせたり。その頃、あるじの風篁は、公けの事にあづかりて、(注)江府にありけり。されば妻の阿満、よろづ［B］家をもりて、まゐりつかふるものまでにもなさけふかく、じひごころ有りければ、人みないとほしとなみだうちこぼすめる。

ある夜、春のまうけにいつくしききぬをたち縫ひて有りけるが、夜いたくふけにたれば、家子（けこ）どもはみなゆるしつ、ねぶらせたり。我ひとり一間に引きこもり、くまぐまかたがたとざし、つゆうかがふべき仮隙（かげき）もなくして、ともし火あきらかにかかげつつ、心しづかにもの[4]縫ひて有りけり。漏刻（ろうこく）声しただり、ややうしみつならんとおもふをりふし、老さらぼひたる狐のゆらゆらと尾を引きて、五つ六つうちつれだちて、ひざのもとを過ぎ行く。もとより妻戸・さうじ、かたくいましめあれば、いささかの(注)虚白だにあらねば、いづくより鑽（きり）入るべき。いとあやしくて、めかれもせず[5]まもりゐたるに、ひろ野などのさゆるものなきところをゆきかふさまにて、やがてかきけつごとく[6]出でさりぬ。阿満はさまでおどろしともおぼえず、はじめのごとく物縫うて有りけるとぞ。

あくる日かの家に[7]とぶらひて、「いかにや、あるじの帰り[8]給ふことのおそくて、よろづ心うくおぼさめ」など、とひ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

なぐさめけるに、阿満いついつよりもかほばせうるはしく、のどやかにものうちかたり、「よべ、かくかくのけいありし」とつぐ。聞くさへえりさむく、すりよりて、「あなあさまし、さばかりのふしぎ有るを、いかに家子どもをもおどろかし[9]給はず、ひとりなどかたふべき。にげなくも剛におはしけるよ」といへば、「いやとよ、つゆおそろしきとも覚えず[10]侍りけり」とかたり聞こゆ。日ごろは窓うつ雨、荻ふく風のおとだにおそろしと、引きかづきおはすなるに、その夜のみ、さともおぼさざりけるとか、いといとふしぎなること也。

（注）
夜半亭…蕪村の俳諧の師匠で既に没していた早野巴人のこと。
仮山…庭の築山。
門扇…門扉、戸板。
江府…江戸。
虚白…ここでは「わずかの隙間」の意。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部１「つきづきし」の意味として、最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　仰々しく
ロ　毎月来客があり
ハ　しっかりとしていて
ニ　につかわしく
ホ　こぢんまりとしており

問二　傍線部２「いと竹のわざ」の意味として、最も適当なものを次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　裁縫の技術
ロ　竹細工を作る技術
ハ　造園の技術
ニ　竹刀を使っての剣術
ホ　笛や三味線の演奏技術

問三　傍線部３「もつけ」とほぼ同じ意味で使われているひらがな二字の言葉を本文中から抜き出せ。

問四　空欄［Ａ］に入るものとして、最も適当な語を次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　睦月　　ロ　卯月　　ハ　文月　　ニ　神無月　　ホ　師走

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　空欄 B に入るものとして、最も適当な語を次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　まめやかに
ロ　すずろに
ハ　かまびすしく
ニ　あさましく
ホ　おどろおどろしく

問六　傍線部４「縫ひて」、５「まもりゐたるに」、６「出でさりぬ」、７「とぶらひて」の主語を次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　風篁　　ロ　蕪村　　ハ　阿満　　ニ　狐　　ホ　家子ども

４＝　　５＝　　６＝　　７＝

問七　傍線部８「給ふ」、９「給は」、10「侍り」は、それぞれ誰から誰への敬意を表す語か。解答を次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　家子どもから阿満へ　　ロ　阿満から蕪村へ　　ハ　蕪村から阿満へ
ニ　蕪村から風篁へ　　ホ　阿満から狐へ

８＝　　９＝　　10＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　本文の内容と合うものを次のイ～ホの中から一つ選べ。

イ　中村家が、繁栄し始めた頃、いろいろとめでたいことが起きた。

ロ　中村家で、桶の中の餅が夜ごとに減少した事件は、あるじの留守中に起こった。

ハ　中村家で、桶の中の餅が半減する事件は、桶に重石を載せることで起きなくなった。

ニ　中村家で、阿満の膝元を五、六匹の狐が通り過ぎる姿は、使用人たちも目撃した。

ホ　阿満は、狐が現れた時には、不安で仕方がなく泣いていた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【補足】（講義動画中に使用します）

「月の異名」

月	読み	季節
睦月	（　　）	「　　」
如月	（　　）	
弥生	（　　）	
卯月	（うづき）	「　　」
皐月	（さつき）	
水無月	（　　）	
文月	（　　）	「　　」
葉月	（はづき）	
長月	（ながつき）	
神無月	（　　）	「　　」
霜月	（しもつき）	
師走	（しはす）	

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　復習問題

① 陰暦四月を意味する語として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　如月　　イ　長月　　ウ　睦月　　エ　水無月　　オ　卯月

② 「長月」とは何月か。次の中から正しいものを選べ。

ア　一月　　イ　四月　　ウ　七月　　エ　九月　　オ　十一月

③ 「春の事ども取りいそぎ」とは、どういうことか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　新年の挨拶まわり　　イ　歳末の取り立て　　ウ　正月祝いの準備

エ　衣替えの準備　　オ　婚礼の準備

④ 「糸竹」とあるが、これは何を指すか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　風流　　イ　自然　　ウ　季節　　エ　楽器　　オ　詩文

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤「かねていとほしかりつるに」の意味として、最適なものを次の中から選べ。

ア　以前から望ましいと思っていたので。
イ　以前より立派になったと感じていたので。
ウ　かねてより困ったことだと思っていたので。
エ　ずっとひそかに恋しいと思っていたので。
オ　前から気の毒だと思っていたので。

⑥「おどろおどろしく」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あきれ果てて　　イ　ものものしく
ウ　泥にまみれながら　　エ　びっくりした様子で

⑦「まめやかに聞こえたまへば」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　やさしげにたしなめなさるので　　イ　真剣に説得なさるので
ウ　優美に申し上げなさるので　　エ　意地悪に申し付けなさるので

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　模範解答

問一　ニ　**問二**　ホ　**問三**　けい　**問四**　ホ　**問五**　イ

問六　４　ハ　５　ハ　６　ニ　７　ロ

問七　８　ニ　９　ハ　10　ロ　**問八**　ロ

〔現代語訳〕

常陸の国、下館という所に、中村兵左衛門という人がいた。亡くなった夜半亭の門人で俳諧を好み、（名を）風篁とよんだ。並ぶ者のない金持ちで、住居も似つかわしく、二町四方ほどに構え、前庭の植え込みや裏庭には奇石異木を集め、池に水を引き、鳥を放し、築山の景色は、自然の眺めそのままに贅を尽くしていた。城主も、時々おいでになるような、またとない長者であった。妻は阿満といって、藤井某という大商人の娘で、歌道や音楽の技術にも通じていた。気だても優雅で風流な女であった。それほどの豪族であったが、いつしか家が衰え、なにかにつけて物寂しく、出入りする者も自然に疎遠になった。

その家がこのように衰えようとするはじめには、いろいろな不思議な出来事がたくさんあった。その中で、たいそうひどく身の毛もよだつほど恐ろしかったことは、ある年の年末、新春の準備のために、餅をいつもより多くついて、大きな桶にいくつともなくたくさん入れておいた。その餅が夜ごとに減っていくので、何者が盗んで行ったのであろうかと、疑いながら、桶ごとに戸板のようなもので覆って、その上に非常に大きな石をのせておいた。翌朝早く、不安に思って開けて見ると、覆いはそのままで、餅は半分以上減ってなくなっていた。その頃、主人の風篁は、公の仕事に関わって、江戸にいた。そこで妻の阿満が、万事こまめに家を守って、出入りして使える者たちにまで情け深く、慈悲の心があったので、人々は気の毒なことだと涙をこぼしたようだ。

ある夜、（阿満は）新春の準備で美しい布を裁縫していたが、夜がたいそう更けたので、下男下女たちは皆許して、寝させた。自分一人が一間に引きこもり、（部屋の）あちこちを隅々まで閉め切って、（中を）覗き見る隙間も全くなくして、燈火を明るくかかげて、心静かに縫い物をしていた。水時計の音が聞こえ、ようやく丑三つ時だろうかと思ったちょうどその時、年老いてや

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

せ衰えた狐がゆらゆらと尾を引いて、五、六匹連れ立って、（阿満の）膝元を通って行った。言うまでもなく妻戸も障子も、しっかり閉めてあったので、ちょっとしたわずかの隙間さえないので、どこから入ってくることができよう。たいへん不思議に思って、（阿満は）目も離さずじっと見ていると、（狐は）遮るもののない広い野原を行き交う様子で、そのままかき消すように出て行ってしまった。阿満はそれほどまで恐ろしいとは思わず、これまでの通り縫い物をしていたそうだ。

翌日（私は）その家を訪ねて、「どうですか、ご主人がお帰りが遅くて、なにかと心細くお思いでしょう」などと、言葉をかけて慰めると、阿満はふだんよりも顔つきがきれいで、のんびりと話をして、「昨夜、かくかくしかじかの不思議なことがありました」と告げた。聞いただけでも膝元も寒く、近寄って、「ああ驚いた、それほどの不思議なことがあったのに、どうして下男下女たちを起こしなさらず、一人で我慢なさったのですか。見かけによらず剛胆でいらっしゃったことよ」と言うと、「いえいえ、少しも恐ろしいとも思いませんでした」と語り聞かせた。普段は窓を打つ雨や、荻に吹く風の音でさえ恐ろしいと、（夜具などを）引きかぶっていらっしゃると聞いているのに、その夜だけは、そのようにお思いにならなかったというのは、まったくもって不思議なことである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔重要単語〕

○つきづきし【付き付きし】…**似つかわしい**。**ふさわしい**。

○またなし【又無し】…**またとない**。二つとない。

○いうなり【優なり】…①すばらしくよい。②**優雅だ**。

○やさし【優し】…①**つらい**。②**恥ずかしい**。③**優美だ**。**風流だ**。④**けなげである**。

○つとめて…①**早朝**。②**翌朝**。

○いとほし…①**気の毒だ**。②いやだ。③かわいい。

○まうけ【設け・儲け】…①**用意**。準備。②ごちそうの用意。もてなし。③食事。

○いたく【甚く】…**ひどく**。非常に。

○まもる【守る（目守る）・護る】…①**じっと見つめる**。②ようすをうかがう。③警戒する。④防ぐ。

○こころうし【心憂し】…①**つらい**。②**いやだ**。

○うるはし【麗し・美し・愛し】…①**りっぱだ**。うつくしい。②**きちんとしている**。③格式ばっている。④親しい。

○おどろかす【驚かす】…①びっくりさせる。②**目をさまさせる**。③訪れる。

○まめやかなり【忠実やかなり】…①**まじめなさま**。**誠実だ**。②本格的だ。

○おどろおどろし…①**気味が悪い**。②**大げさである**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第八講　解答解説

〔解説〕

① 四月は卯月。よって、正解はオ。ちなみに、如月は二月。長月は九月。睦月は一月。水無月は六月。「**月の異名**」は必ず覚えること。

② 長月は九月。よって、正解はエ。

③ 春は一月～三月。「**春のいそぎ**」や「**春のまうけ**」は「**正月の準備**」という意味。よって、正解はウ。

④ 「**糸竹**」は**音楽**のこと。よって、正解はエ。

⑤ 「いとほし」は重要単語で、「気の毒だ」の意味。「いとしい」という意味もないわけではないが、「かねて」は「前から」の意味で、「ずっとひそかに」という意味にはならないので、正解はオ。

⑥ 「おどろおどろし」は重要単語で、「気味が悪い・大げさだ」の意味。よって、正解はイ。

⑦ 「まめやかなり」は重要単語で、「まじめだ・誠実だ」の意味。よって、正解はイ。

〔解答〕

①　オ　②　エ　③　ウ　④　エ　⑤　オ　⑥　イ　⑦　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。